



学内広報

No.1318

2005.7.27
東京大学広報委員会



大学院農学生命科学研究科附属緑地植物実験所の蓮（13ページに関連記事）

CONTENTS

| | | | | |
|-----------|---|--|--|----|
| 一般ニュース | 2 | ベトナム国立大学ハノイ校との協定の調印及びAPRU年次総会の開催、「教育環境のリデザイン」シンポジウムを開催 | について、キャリアサポート室の業務内容について、平成17年度（後期）東京大学学術研究活動等奨励事業（国外）給付申請者の募集について、第20回工学部・工学系研究科技術発表会の開催案内、第22回理学系研究科技術シンポジウム、2005年度空間情報科学研究センター年次シンポジウムーCSIS DAYS 2005ーへのお誘い、8月の保健センターの診療日程について | |
| 部局ニュース | 4 | 工学系研究科と情報理工学系研究科合同による夏の留学生懇談会が行われる、理学部1号館第Ⅱ期工事竣工式典を開催、三鷹国際学生宿舎で自衛消防訓練、附属中等教育学校で三者協議会開催、公開講座「関野貞アジア踏査」の終了 | EVENT INFO | 15 |
| キャンパスニュース | 7 | 少林寺拳法部が関東大会三連覇を達成 | 淡青評論 | 16 |
| 掲示板 | 8 | 山上会館・山上会館龍岡門別館の夏季期間の休館 | 大学改革にはフィードバックシステムが不可欠 | |
| | | | コラム | |
| | | | Dyella japonicaの発見 | |
| | | | コミュニケーションセンターだより | |

研究協力部

ベトナム国立大学ハノイ校との協定の調印
及びAPRU年次総会の開催

6月29日（水）より7月2日（土）まで、小宮山宏総長がベトナムとシンガポールを訪問し、ベトナム国立大学ハノイ校との協定更新の調印を行うとともに、シンガポールで開催されたAPRU (Association of Pacific Rim Universities: 環太平洋大学協会) 年次総会等に出席した。

6月30日（木）、ベトナム国立大学ハノイ校において、小宮山総長がダオ・チョン・ティ学長と会談し、両大学間の学術交流協定の更新覚書に署名するとともに、調印式に参列した学生等に対して「ビジョン2050」についての講演を行った。この講演のために、ベトナム語に翻訳されたスライドが用意された。



ベトナム国立大学ハノイ校との協定更新の調印式の様子

続いて7月1日（金）、小宮山総長はシンガポールで開催されたAAU (the Association of American Universities) とAPRUの合同の学長会議に出席した。ここでは、国際化と大学のあり方についてのセッションが開催されたほか、シンガポール元首相リー・クワン・ユー氏による講演が行われた。

7月2日（土）には、APRU (Association of Pacific Rim Universities: 環太平洋大学協会) 年次総会が開催され、総長が理事に選出されたほか、2006年に遠隔学習とインターネット (DLI) に関する会議、2007年に地震・津波災害についてのシンポジウムを本学が主催することに決定した。また、加盟大学のうち7大学より最近の取組について発表があり、小宮山総長からは、サステイナビリティ学連携研究機構 (IR3S) についてのプレゼンテーションが行われた。

同じく7月2日（土）、オーストラリア国立大学、シンガポール国立大学、北京大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ、イェール大学、カリフォルニア大学バークレー校等による新しい大学連合の準備会合が開催され、教員の交流、研究協力、学生交換などを行う大学連合の発足に向けた準備に向けて各大学が協力するため、総長を含む出席学長が覚書に署名した。

教育企画室

「教育環境のリデザイン」シンポジウムを
開催

7月11日（月）15時から弥生講堂・一条ホールにおいて、「東京大学教育環境のリデザインー情報通信技術による『授業の革新』ー」と題して、本学教育企画室主催のシンポジウムが開催された。

古田元夫理事・副学長の挨拶に引き続き、教育環境リデザインプロジェクト（通称TREEプロジェクト：Todai Redesigning Educational Environment）発足を記念して、本学の教育の情報化の方針及びプロジェクトの紹介等が行われた。



古田元夫
理事・副学長

TREEは、今後、各学部・研究科・教育部のニーズを中心に、全学の教育環境の改善に資する各種のサブプロジェクトを実施する予定である。出席者は、本学教職員・学生・関係者、学外関係者等、併せて約187名（主催者23名含む）であった。

各部署の取り組みとしては、新領域創成科学研究科における「遠隔テレビ会議を使った双方向遠隔授業」について、相田仁教授が報告した。

総合文化研究科の永田敬教授は、数百人規模の学部学生を相手に、より教育効果の高い講義を行うため、情報基盤センターと日本ユニシスグループが共同で開発した学習管理システム「CFIVE」を使った教授の実際について報告した。

情報学環の石田英敬教授と情報理工学系研究科の田中久美子助教授は、ウェブを利用した語学教育支援システム「天神」について報告した。「天神」は、学習者にインタラクティブな語学学習の機会を提供する。自動で回答を採点し、学習者のエラーに応じたヒントの提示を行うなどの機能もっている。



工学系研究科・
工学教育推進機構
藤原毅夫教授

シンポジウム第二部は、本年より誕生した「工学教育推進機構」と「教養教育開発機構」の取り組みとプロジェクトについて、工学系研究科の藤原毅夫教授、総合文化研究科の永田敬教授らが報告した。

工学教育推進機構のミッションは、「工学知の構造化教育と創造性工学教育」を隔離することにある。具体的なプロジェクトとして、工学部・工学系大学院のカリキュラムを体系化したり、構造化・可視化を行うこと、eラーニング環境の整備などを進めていくこと

を明らかにした。

永田教授によると、教養教育開発機構は「学内で行われている教養教育に関する教育開発」を推進する組織であるという。具体的には、「サイエンスラボ」「ライティングセンター」などをつくって、教養教育と専門教育とのブリッジを行いたいと述べた。



総合文化研究科・
教養教育開発機構
永田敬教授

最後にこうした各学部・研究科の取り組みを支援する組織・体制として、情報基盤センターの山口和紀教授が「情報基盤センターの教育支援事業」について紹介した。統一的な認証システムから、教育コンテンツ開発支援まで、様々なサービスが利用可能であることを紹介した。

TREEプロジェクトのコーディネータでもある、大学総合教育研究センターの中原淳講師は、TREEには「情報通信技術を活用し、東大の教育の改善に取り組む」「情報通信技術を活用した教育環境について最新の研究成果、他大学の動向の把握」「世界のリーディングユニバーシティとして未来の教育環境のあり方を提案する」という3つの使命があるとし、今後、各学部・研究科・教育部のニーズに答えながら、プロジェクトを進めていくとした。

具体的には、学習歴、職業、目標など多様化している大学院生にオンデマンドの講義ビデオ配信を行う「TODAI Ed. TV (仮題)」や、国内外の「教育の情報化」に関する動向、最先端の教育知見を紹介する「TREE blog」、 「未来の講義室」の開発などを行っていく計画があることを述べた。

最後に、情報学環の山内祐平助教授が、海外大学の「教育の情報化」の推進方法と、支援のあり方について述べた。米国コロンビア大学では、「先端的なメディア

を教育に活用すること」をミッションとした、常勤職員25人、非常勤職員10~20人規模からなる支援組織がある。こうした専門組織においては、教材開発のプロフェッショナルであるインストラクショナルデザイナーが担い、質の高い教材を生み出しているのだという。大学教育の向上のためには、過度に個々の教員や部局のボランティア精神にたよらず全学的な推進体制を確立することが重要であることをのべた。また、そうした推進体制を支える財政的裏づけ、そこで生まれた学習環境の学習効果を評価し、公開していくことが重要であると述べた。

シンポジウム終了後には、懇親会も開催された。なお、教育企画室では、今後、このようなシンポジウムを年に1度程度行っていく予定である。



参加者は180名弱、関心の高さがうかがえる

原稿募集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数800字以内（写真がある場合は文字数を控えるにしてください。）
- ・写真には、キャプション（説明文）を必ず添えてください。
- ・原稿は電子データで下記まで、メールまたは学内便でお送りください。

送付先 東京大学総務部広報課

TEL：03-3811-3393 内線：22031、82032

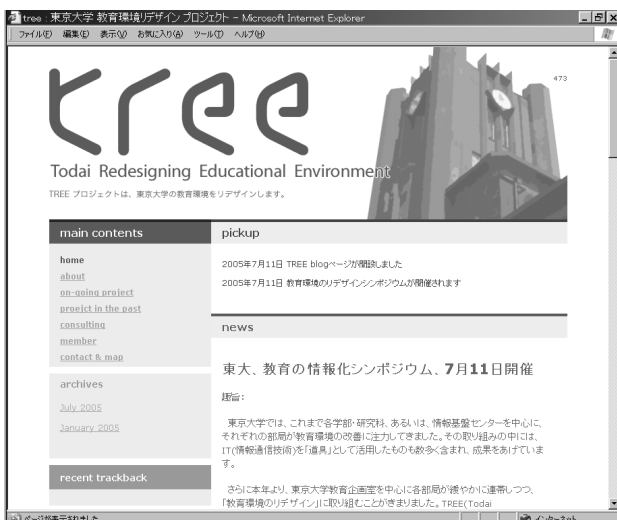
FAX：03-3816-3913

E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は毎月第1・3水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合を除きます。

平成17年度の学内広報の発行スケジュール

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html



TREE blog (<http://tree.ep.u-tokyo.ac.jp/>)

大学院工学系研究科・工学部／大学院情報理工学系研究科

工学系研究科と情報理工学系研究科合同による夏の留学生懇談会が行われる

7月8日（金）17時30分より、生協第二食堂において夏の留学生懇談会が行われた。今年は「ドラえもん」と夢をテーマに外国人留学生、日本人学生、関係教職員が400人以上も参加する盛大な会となった。協定校ストックホルム王立工科大学の交換留学生ハ・アレックスさん（産業機械工学）による司会で開会し、平尾公彦工学系研究科長、武市正人情報理工学系研究科長の挨拶、横山明彦国際交流委員長の乾杯の後、賑やかな雰囲気でお会食が始まった。



工学系国際交流委員長横山教授による乾杯

工学系研究科日本語教室で学ぶ留学生による「ドラえもん」の歌の合唱、日本人学生（丁友会）によるロボカップの披露などを楽しみながら工学・情報工学を志す者同士が夢を語り合う会となった。また留学生の家族も招待され参加者全員のビンゴゲームも大変盛り上がり、日本での夏の思い出になってくれれば幸いである。



留学生によるドラえもんの歌

大学院理学系研究科・理学部

理学部1号館第Ⅱ期工事竣工式典を開催

平成16年12月に完成した1号館第Ⅱ期総合研究棟（中央棟）は、既存の西棟との連携によって、最先端の理学研究をフレキシブルに展開できるよう配慮されており、理学系研究科・理学部のキャンパス各所に分散していた研究室の統合化や、建物の老朽狭隘状況が改善され、教育研究環境の整備が大きく進展したが、その竣工式典及び祝賀会が7月5日（火）16時30分から小柴ホールにおいて行われ、学内外から約200名の関係者が出席した。



古田元夫理事・副学長の挨拶

式典は、岩澤康裕理学系研究科長の式辞、古田元夫理事・副学長の挨拶に続き、文部科学省大臣官房文教施設企画部の金谷史明計画課長から祝辞が述べられた後、長坂潤一施設部長の工事概要報告が行われた。引き続き、岩澤研究科長から工事にたずさわった関係11社の方々にそれぞれ感謝状が贈呈された。



感謝状の贈呈

式典に続き祝賀会が小柴ホール前のホワイエで17時過ぎから行われ、山本正幸副研究科長の挨拶、酒井英行副研究科長の乾杯で祝宴が始まり、倉知節株式会社鴻池組常務執行役員東京本店長から祝辞が述べられた。小柴昌俊特別荣誉教授、向丘弥生町会の代表の方々なども出席され和やかな歓談の後、19時すぎに散会した。

また、同時時間帯には施設見学も行われ、研究を紹介したパネルなどの前で教員の説明に聞き入る参加者など、各所でみられた。

大学院総合文化研究科・教養学部 三鷹国際学生宿舎で自衛消防訓練

7月9日（土）10時から三鷹国際学生宿舎において、三鷹消防署の指導・協力により自衛消防訓練が行われた。

三鷹国際学生宿舎は、鉄筋コンクリート3階建て6棟から成り、教養学部在籍する学生及び留学生等約580名が現在入居している。建物は耐火建築であるが、宿舎の性格上火災等の防災には十分注意を払っており、その一環として万一の場合を想定し年に2回、春と秋に自衛消防訓練を実施している。

当日は前夜来の雨も上がり、留学生を含む宿舎生及び宿舎職員、警備員の総勢約50名が参加して訓練が実施された。

訓練は、宿舎生の居室から火災が発生したことを想定して、火災報知器の発報により、宿舎生、警備員、職員それぞれがどのように対応し安全に避難するかを確認する避難訓練から開始した。



消火器使用訓練

避難訓練の後、屋内消火栓による放水訓練及び2種類の消火器の使用訓練を行い、続いて通報セットを使った通報訓練、人形モデルを使っての人工呼吸・心臓マッサ

ージ等の応急救護訓練を行った。

時間の都合上全員が体験することはできない訓練も多かったが、心臓マッサージについてはほぼ全員が体験し、消防署員の助言の下、手を当てる位置や力加減等を慎重に確認していた。

最後に、指導にあたった三鷹消防署員から、今回の訓練を活かして、実際の災害時には、あわてず人命の安全を最優先し、行動して欲しい旨の講評をいただき訓練を終了した。



消防署員の指導の下、心臓マッサージ訓練を行う宿舎生

大学院教育学研究科・教育学部 附属中等教育学校で三者協議会開催

6月18日（土）10時から12時まで、教育学部附属中等教育学校で三者協議会が開催された。三者協議会は附属学校が中、高校から六年一貫の中等学校に移行する際、「開かれた学校」を目指して発足したものである。三者とは、生徒、教師、保護者の三者を意味しており、いずれも有志が参加しているが、生徒は生徒会のメンバーが中心である。活動としては、年三回定期協議会がある他、必要に応じて臨時会が行なわれる。

過去には「本校の制服のあり方」、「部活動制度について」、「中等学校に期待するもの」、「宿泊行事について」などのテーマで話し合いを行ってきた。

今回のテーマは「学びの共同体ってなあに？」。附属学校では今年の4月から佐藤学教育学部長の指導を受け、全ての教室の机と椅子をコの字型にして、生徒主体の、授業を行なっている。生徒を男女4人のグループに編成し、授業中グループ活動を多く取り入れる。この新しいシステムを導入して2ヶ月経った今、これまでの経緯、授業の様子などが熱心に話し合われた。



三者協議会の様子

実際新しい形の授業を受けている生徒達からは「初め少し戸惑ったが、自分の意見を人に伝え、人の意見も聴けるので以前より気がつく点が多い。」「コの字型の教室になって先生と近くなり質問がし易くなった。」などの感想が報告された。

また現在全ての教師が自分の授業を公開し、学年の教師間で授業検討会を行なっているが、ある教師からは「他の授業も見ているので先生と生徒のつながりが深くなったように感じる」という意見もあった。

保護者からは「席替えを頻繁に行なって欲しい」「空き時間に生徒が他の生徒を教えている場面に出会い感心した」「様々な意見が出て先生方は揺るがない方が良い。先生達の熱意を信じる」等の発言があった。今回の協議会は話題の性質上、いつもより参加者が三者とも多く、話し合いも非常に活発に行なわれた。この協議会は浦野東洋一本学名誉教授をはじめとする本校の学校評議会のメンバー、教育学部勝野正章助教授とゼミの学生さん、都内の公立小・中学校の校長などが見学する中で行なわれた。



これからの学内広報発行スケジュール

8月は学内広報はお休みです。

| 号数 | 発行日 | 原稿締切 | 配布日 |
|------|-----------|----------|-----------|
| 1319 | 9月14日(水) | 9月7日(水) | 9月21日(水) |
| 1320 | 9月28日(水) | 9月21日(水) | 10月4日(火) |
| 1321 | 10月12日(水) | 10月5日(水) | 10月19日(水) |

総合研究博物館

公開講座「関野貞アジア踏査」の終了

6月10日(金)～7月8日(金)(毎金曜)の日程で、現在、総合研究博物館にて開催中の東京大学コレクションXX「関野貞アジア踏査—平等院・法隆寺から高句麗古墳壁画へ」展に関連した公開講座「関野貞アジア踏査」が下記のとおり開催されました。学内外の講師による、建築、歴史、文化財保護等に関する講義を、受講者たちは熱心に聴講していました。

全5回 各回2時間(15:00～17:00)

6月10日(金) 藤井恵介(工学系研究科・助教授)

「関野貞と日本建築史研究」

6月17日(金) 早乙女雅博(人文社会系研究科・助教授)

「関野貞の考古学研究」

6月24日(金) 吉川聡(奈良文化財研究所)

文化遺産研究部・主任研究官)

「関野貞の平城宮発見」

7月1日(金) 毛利和雄(NHK解説委員)

「壁画保存からみる関野貞と関野克」

7月8日(金) 韓三建(韓国 蔚山大学建築学部・教授)

「関野貞の韓国古蹟調査」



大学院工学系研究科 藤井恵介助教授の講義風景

総合研究博物館では現在下記の展示を開催中です。

特別展示

東京大学コレクションXX「関野貞アジア踏査—平等院・法隆寺から高句麗古墳壁画へ」展

期日 6月4日(土)～9月4日(日)

場所 総合研究博物館新館展示ホール

開館時間 10時～17時(入館は16時30分まで)

問い合わせ <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

ハローダイヤル 03-5777-8600

学生部

少林寺拳法部が関東大会三連覇を達成

5月4日（水）、第42回少林寺拳法関東学生大会（日本武道館）で、本学の少林寺拳法部が優勝三部門を含む優秀な成績を挙げ、三年連続の総合優勝を果たした。

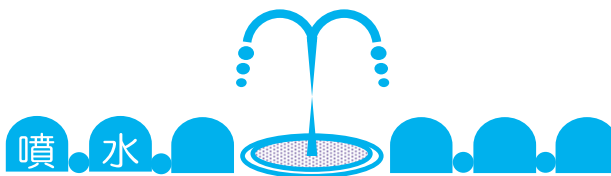
参加62校中、関東地区は日本体育大学、国際武道大学、慶応義塾大学といった強豪校がひしめく激戦区であるが、日頃の練習が実り、二位に大差をつけての総合優勝だった。

部門毎にみると、男子段外の部で岡本・早野組が最優秀賞、中居・金組が優秀賞、女子段外の部で岡野・倉林組が最優秀賞、北村・大石組が優秀賞、男子初段の部で森・土居組が最優秀賞、男女初段の部で高橋・松尾組が優良賞、女子三段以上の部で赤尾・迫組が優秀賞、男子三人掛の部で佐々木・西村・北岸組が優秀賞、男子単独の部で佐々木が優良賞、女子団体の部で優秀賞などだった。

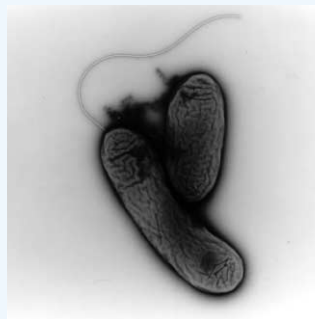
今回の結果について、佐々木優主将は「先ずはご指導・ご支援をくださった総監督、部長、監督、OB会長、OBの先輩方にお礼を申し上げたい。しかし、本学少林寺拳法部は過去に9連覇を達成したことがある。この記録に追いつき、また追い越すことを目標に、来年度以降も一層の精進をしていくつもりだ」と、優勝の喜びに気持ちを緩めることなく、更なる連覇への意欲をみせていた。



総合優勝杯を前に、総監督、監督、OBの方々と記念撮影



Dyella japonicaの発見



Dyella japonica IAM 15069^T

「三四郎池」の土から新属新種の細菌が分離された。日本で見出されたことに因み、Dyella japonica と命名され、国際細菌分類命名委員会の学術誌 Int. J. Syst. Evol. Microbiol. 2005 年号に学名提案の論文が掲載された。

本菌種が秘める機能については今後の研究に待つところである。未知の細菌がごく身近な所に生息していた。2002年2月に大学院生の謝承暉君により、窒素固定細菌を分離する研究の過程で遺伝子解析から特異な細菌株であるとして見い出されたものである。



三四郎池

(分子細胞生物学研究所 横田明)

総務部

山上会館・山上会館龍岡門別館の夏季期間の休館について

お知らせ

山上会館・山上会館龍岡門別館では、下記のとおり休館とさせていただきます。

記

休館日：8月14日（日）～8月21日（日）

学生部

キャリアサポート室の業務内容について

お知らせ

従来から学生への就職支援については、各部局が主な機能を果たしていますが、各部局の就職支援を補完するセイフティネット機能として、本年4月に「キャリアサポート室」が設置されました。キャリアサポート室では、学生の進路選択のための意志決定をサポートするためのさまざまな取り組みを行っています。

現在、行っている主な業務内容及び今後の予定等についてご紹介します。

1. キャリアサポート室について

体制：室長 竹原副理事

室員 教員・選考中、学生部長、学生部キャリアサポートグループ、留学生課、キャリアアドバイザー（留学生キャリアサポート室は改組し、この室に含める。）

場所：学生部内（安田講堂学生部センター）

2. 主な業務内容

i) 企業採用情報の提供

■利用内容：パソコンによる情報検索、求人票・就職関連情報誌の閲覧、各種資料の配布、就職活動用ビデオテープの視聴と貸出等

ii) 企業別卒業生リストの整備、閲覧（本年10月頃よりサービス予定）

iii) キャリアアドバイザーによるキャリア相談

■受付時間：火～金曜 13:00～17:30（予約制）

■相談内容：就職活動及び進路全般に関する悩みや不安に対するアドバイス、エントリーシート記入についてのアドバイス、模擬面接指導等

■連絡先：キャリアアドバイザー

本村（もとむら）

motomura@adm.u-tokyo.ac.jp

TEL：03-5841-2650

iv) キャリアサポート行事予定

○留学生合同会社説明会：

4/9（土）、4/16（土）、5/14（土）実施（終了）

○学生と若手卒業生との交流会（仮称）：

10月実施予定

○キャリア研究会（OB・OG懇談会）：

18年1、2、3月実施予定

○企業説明会：18年4、5月実施予定

v) 若手卒業生によるキャリアナビゲートプロジェクト

・若手卒業生が学生との交流を通じ、キャリア形成のサポートを行う。

vi) 外国人材活用に関する研究会

・留学生採用に積極的な企業が参加し、企業の人材活用、制度、手法に関する研究を行う。

vii) 留学生キャリアサポートメールマガジンの発行

（本件に関する問い合わせ先）

学生部キャリアサポートグループ

（岡本、佐々木、上間、本村 内線22552、22544）



研究協力部

平成17年度（後期）東京大学学術研究活動等奨励事業（国外）給付申請者の募集について

募 集

下記のとおり募集しますので、所属研究科等事務部を通じ、研究協力部国際課まで提出願います。

なお、申請手続き等詳細につきましては、所属研究科等事務部担当係へお問い合わせください。

各事業の申請書類は下記のURLにてダウンロードできます。

http://www.u-tokyo.ac.jp/res02/d03_05_01_j.html

募集要項

1. 趣旨

大学院学生の国外における学会・研究集会での研究発表及びフィールドワーク（留学の場合を除く。）に対し、学術奨励費を支給することにより、大学院学生の研究活動の活性化を図る。

2. 応募資格

大学院に在籍する学生（留学生を含む。）
（ただし、先方から旅費支給のある場合は、申請を認めない。）

3. 給付する学術奨励費

平成17年12月から平成18年5月までに行われる国外における学会・研究集会での研究発表及びフィールドワークに対して、渡航する地域により、別表の額の学術奨励費を給付する。なお、学術奨励費には、渡航費の一部（地域により定額）及び学会参加登録料などの一部として5万円が含まれる。（ただし、20万円を上限とする。）

4. 給付予定者数

各研究科等（学際情報学府及び公共政策学教育部を含む。）若干名とする。

5. 申請手続

学術奨励費の給付を希望する者は、下記の書類を所属研究科等の長を通じて、東京大学学術研究奨励資金実施委員会委員長に提出する。

(1) 提出書類

- ア 申請書（様式1）2部（原本1部及び写1部）
 - イ 説明書（様式2）2部（原本1部及び写1部）
- なお、当該学会・調査等の概要を記載した要項等がある場合は、添付すること。

(2) 提出期限

| | |
|---------------|---------------------------------|
| 給付区分 | 平成17年度後期 |
| 渡航期間 （出発月） | 平成17年12月～平成18年5月 |
| 提出期限 | 平成17年9月15日（木）～ 平成17年9月30日（金） |

なお、平成17年6月～11月の渡航期間において、本学術奨励費の給付が決定している者は、今回の申請をすることができない。

(3) 提出先

所属研究科等事務部

6. 選考及び結果の通知

給付対象者の選考は、所属研究科等の意見を尊重して、東京大学学術研究奨励資金実施委員会において書類審査のうえ、委員長が決定する。選考の結果は、所属研究科等の長を通じて、11月下旬に申請者あて通知する。

7. 計画の変更・中止

申請した研究発表・フィールドワークを変更又は取り止める場合は、選考中あるいは給付決定後を問わず、速やかに所属研究科等の長を通じて委員長に報告し、その指示を受けること。

8. 報告書の提出

学術奨励費の給付を受けた者は、帰国後、速やかに所属研究科等の長を通じて、委員長に報告書を提出すること。

9. 問合せ先

所属研究科等事務部、
又は研究協力部国際課研究活動支援チーム

(別表) 東京大学学術研究活動等奨励事業(国外) 旅行地域別給付額一覧

| 地域区分 | 旅行地域 | 適用地域 | 給付額 |
|------|--------------|--|------|
| A区分 | 東アジア | 台湾、大韓民国 | 10万円 |
| | オセアニア | グアム(アメリカ合衆国) | |
| B区分 | 東アジア | 中華人民共和国、モンゴル、朝鮮民主主義人民共和国 | 15万円 |
| | 東南アジア | インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ・ダルサラーム、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス、東ティモール | |
| | オセアニア | ソロモン諸島、ナウル、ハワイ諸島(アメリカ合衆国)、パプアニューギニア、パラオ | |
| | 北米 | アメリカ合衆国の西部8州(アイダホ州、アリゾナ州、オレゴン州、カリフォルニア州、コロラド州、ネバダ州、ユタ州、ワシントン州) | |
| C区分 | 南アジア | 全域 | 20万円 |
| | 中東 | 全域 | |
| | アフリカ | 全域 | |
| | オセアニア | A区分、B区分に記載以外の地域 | |
| | 北米 | B区分に記載以外の地域(グリーンランドを含む) | |
| | 中米・カリブ海諸国 | 全域 | |
| | ヨーロッパ、バルト三国 | 全域 | |
| | ロシア、NIS諸国 | 全域 | |
| | 南米 | 全域 | |
| 南極大陸 | 南極大陸及び周辺の島しょ | | |

※給付額には、渡航費の一部、及び、学会参加登録料などの一部として5万円が含まれます。



「噴水」のコーナーにご意見を！！

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただくコーナーとして「噴水」が設けられています。本学における教育・研究活動等に関する意見等をお寄せください。広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

[原稿の送付先] 東京大学総務部広報課 MAIL: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

[お問い合わせ] TEL: 03-3811-3393 内線: 22031、82032

大学院工学系研究科・工学部

第20回工学部・工学系研究科技術発表会の開催案内

シンポジウム・講演会

大学院工学系研究科・工学部では、技術系職員が教育・研究に関わる技術業務を遂行する過程で得られた成果を発表し、そのレベルを一層高めるための相互研鑽の場として、「工学部・工学系研究科技術発表会」を下記の通り開催いたします。

聴講者の制限はありません。より多くの皆様の聴講を希望しております。尚、技術発表会については工学系研究科・工学部のホームページでご覧いただけます。
<http://www.t.u-tokyo.ac.jp/archives/2005/0609/index.html>

日時：9月29日（木）10:00～17:00

会場：武田先端知ビル武田ホール(学浅野キャンパス内)

主催：工学部・工学系研究科（技術発表会実行委員会）

問い合わせ先：工学部・工学系研究科 総務課厚生係気付
技術発表会実行委員会（内線26019）

プログラム

【開会の挨拶】

10:00～10:15 工学系研究科長 平尾 公彦
実行委員長（技術部長） 田中 知

【口頭発表1】

10:15～10:30 「学生教育支援ソフトShanFastの評価とその応用について」
環境海洋工学専攻 榎本 昌一

10:30～10:45 「5年間の3次元CAD/CAM演習による改良点と取り組み方法」
精密機械工学専攻 碓山 みちこ

10:45～11:00 「原子力専攻の情報ネットワーク構築について」
原子力専攻 林原 正志

【口頭発表2】

11:05～11:20 「分子ビーム圧測定方法の検討」
原子力国際専攻 安本 勝

11:20～11:35 「光ファイバーの引張試験方法の改善」
環境海洋工学専攻 金井 誠

11:35～11:50 「天然繊維“ケナフ”とポリ乳酸樹脂による複合材料の成型と特性」
環境海洋工学専攻 大沢 勇
環境海洋工学専攻 鶴沢 潔
環境海洋工学専攻 金井 誠

【特別講演】

13:00～13:50 「巨大都市の水資源と水処理」
都市工学専攻 大垣 眞一郎 教授

【口頭発表3】

14:00～14:15 「ジメチルエーテルの特性評価」
化学システム工学専攻 伊藤 葵

14:15～14:30 「高純度ポリエチレンの放射化分析」
原子力専攻 石本 光憲

14:30～14:45 「PIXE分析法におけるバックグラウンド低減対策」
原子力国際専攻 伊藤 誠二

【ポスターセッション】

14:45～15:15
「クルーレスソーラーボートの設計と製作」
環境海洋工学専攻 榎本 昌一

「色彩工学の修得」
機械工学専攻 蓮池 彰

「フローインジェクション分析法による重クロム酸中の銅の微量分析」
応用化学専攻 藤村 一良

「大学開放研究室における自動試料交換測定装置の開発」
原子力専攻 川手 稔
原子力専攻 石本 光憲
原子力専攻 澤幡 浩之

【記念講演】

15:15～16:05
小宮山 宏 総長

【口頭発表4】

16:15～16:30 「安全管理」
機械工学専攻 蓮池 彰

16:30～16:45 「労働衛生管理の自主的対応について」
機械工学専攻 石川 明克

大学院理学系研究科・理学部 第22回理学系研究科技術シンポジウム

シンポジウム・講演会

理学系研究科技術シンポジウムを下記のように開催いたします。多くの皆様の聴講を歓迎いたします。

シンポジウム終了後情報交換会を開催しますので、引き続きの参加を歓迎します。

なお、本シンポジウムに関する情報は理学系技術部のHP (<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/s-tech/gisyinpo.htm>)にて公開しています。

●日 時 9月9日 (金) 13:00開会

●会 場 理学部1号館西棟206号室 (2階)

●内 容

「東大植物園における植物記録データの変遷」(植物分布記載システムの現状)

山口 正 (附属植物園)

「元素分析の実際」

佐伯 喜美代 (化学専攻)

「三崎臨海実験所周辺の生き物たち その2」

杉井 那津子 (臨海実験所)

<招待講演>

「大賀ハスの発掘と花蓮栽培の発達」

南 定雄 (農学生命科学研究科附属緑地植物実験所)

<特別講演>

「蛋白質のフォールディング問題：物質科学と生命科学との接点」

桑島 邦博 教授 (物理学専攻)

(問い合わせ)

理学系研究科技術部シンポジウム実行委員会
委員長 山口 正 (附属植物園本園)

TEL : 03-3814-0294

MAIL : yamag@bg.s.u-tokyo.ac.jp

空間情報科学研究センター 2005年度 空間情報科学研究センター 年次シンポジウム - CSIS DAYS 2005 - へのお誘い

シンポジウム・講演会

本年度の当センターシンポジウムの日程が決定しましたので、ご案内します。

年次シンポジウムは今回で第8回目となります。従来年次シンポジウムは1日だけでしたが、今年度からは2日間に拡大し、空間情報科学研究センターを中心とした空間情報科学に関する共同研究の成果を広く知っていただき、また、産官学の連携の強化を促進する内容へと発展させたいと考えています。

具体的には、2日目に空間情報科学研究センターおよび拠点校を中心とした「全国共同利用研究発表大会」を設けます。プログラムの具体的な内容は、8月末に決定しますので、その時期に、本シンポジウムのホームページをご覧ください。

日 時 : 9月27日 (火)、28日 (水)

場 所 : 本郷キャンパス山上会館 大会議室 (2階)

参加費 : 無料 (ただし、懇親会 1,000円)

問合せ : 空間情報科学研究センター

第8回年次シンポジウム受付係

E-mail: csisdays05-office@csis.u-tokyo.ac.jp

詳しい内容は下記ホームページで順次公開します

<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/sympo2005/>

・参加申込み受け付け開始 : 8月中旬 (予定)

・最終プログラムの公開 : 8月下旬 (予定)

【プログラム - CSIS DAYS 2005 - (暫定版)】

<9/27 (火) >

午前 : 「招待講演」セッション

- "Some Observations on the Interaction Between Spatial Data Handling and Analysis and Computer Science and Technology"

Duane F. Marble 先生 (オハイオ州立大学地理学科名誉教授)

<http://www.geography.ohio-state.edu/faculty/marble/>

午後 : 「空間情報社会研究フォーラム」セッション

- 「研究フォーラムの背景と目標」

柴崎亮介（空間情報科学研究センター長）

－「基調講演」 「ユビキタスネットワーク化の展開と空間情報社会」

村上輝康（野村総合研究所理事長）

－「設立総会」

夕方：懇親会

<9/28 (水) >

全日：「全国共同利用研究発表大会」セッション

当センターおよび全国における空間情報科学に関する研究についての発表が行われます。一般的な学会発表とは異なり、多くの一般の方々に研究を容易に理解していただくために、分かりやすい発表を行う点を強調しております。以下の2部構成になっております。

(1) 「口頭発表」サブセッション

1件あたり5分程度で研究の内容を紹介していただきます。たとえば、1時間のセッションでは、12件の発表内容を知っていただくことになります。この口頭発表は、次のポスター発表のインデックスとしての役割を果たします。

(2) 「ポスター発表」サブセッション

口頭発表では、参加者に短時間で多くの内容を広く浅く知っていただく場を実現します。一方、ポスター発表では、興味がある研究に対して、より深い内容を知っていただく機会を実現できます。口頭発表の直後にポスター発表を行います。

この「全国共同利用研究発表大会」セッションは、発表募集も行いますので、是非ご投稿をご検討ください。詳しくは、本シンポジウムのHPに記載してあります。



当日は3,000人を超える人たちが訪れ、会場は大盛況でした。赤門の店舗よりもお客様との距離が近いこともあり、学生スタッフが商品の研究成果ポイントの説明に大活躍。その一方で応えるのに窮するような専門的な質問を投げかけてくる人もいて（もしかして東大OB?）活発なコミュニケーションがありました。そんな中で主婦の方々が多かったこともあり消臭効果のある光触媒シートは、見た目はそっけない商品ではありますがたくさんのお客様にお買い求めいただきました。

光触媒シート

光触媒効果のある酸化チタンと活性炭を組み合わせ、不織布と透明フィルムでシート状にしたものです。

衣装箱や靴箱などに入れ、防臭シートとして利用できます。時々天日干しをすることで何度でも繰り返し利用できます。

2枚組み500円



研究成果など大学の活動を相手が理解できる言葉で伝えていくことの重要性をあらためて実感する機会となりました。赤門店舗でも是非、商品についてスタッフに聞いてみてください。面白い話が聞けるかもしれませんよ。

緑地植物実験所のみなさま、花園地区自治会のみなさま、大変お世話になりました。ありがとうございました。

コミュニケーションセンターは、下記の期間、休館とさせていただきます。

休館日：8月13日（土）～8月21日（日）

（担当：渉外本部 曾我）

コミュニケーションセンターだより No.2

■7月16日（土） 蓮祭り

千葉の検見川にある緑地植物実験所をみなさんをご存知でしょうか。あの「大賀蓮」が発見された場所で、毎年「観蓮会」が開催されています。蓮は早朝に花が開き、夕方には閉じてしまうため、朝の5時から午前10時までの早朝に開催されます。



■蓮祭りで光触媒脱臭シートが売れる

このお祭りに学外イベントとしては初めてコミュニケーションセンターの出店をいたしました。



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター

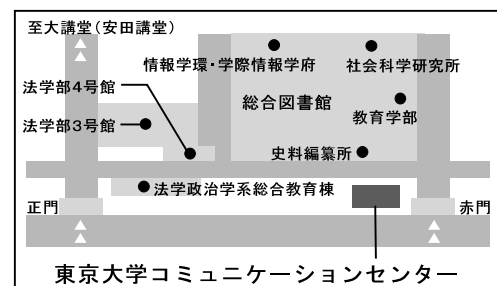
The University of Tokyo

Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10:30～18:30

電話：03-5841-1039

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01_j.html



保健センター 8月の保健センターの診療日程について

お知らせ

8月1日(月)～8月31日(水)の期間は、下表のとおり業務を行います。

■本郷支所 (03-5841-2574)

| 診療科等 | 診療日時 | 対象者 |
|------------|---|----------------|
| 内科 | 月～金 10:00～11:45 | 学生・職員 |
| 精神神経科 | 月～金 10:00～12:00、13:00～16:00 ※休診日があるため、事前に問い合わせ・予約のこと | 学生・職員 (予約制) |
| 歯科口腔外科 | 8月2日(火) 13:00～15:00 末 永 8月3日(水) 13:00～15:00 宮 路 8月10日(水) 10:00～12:00 大 木 8月17日(水) 10:00～12:00 大 木 8月18日(木) 13:00～15:00 藤 原 8月23日(火) 10:00～12:00 片 桐 8月25日(木) 10:00～12:00 波田野 | 学生・職員 (予約制) |
| 耳鼻咽喉科 | 8月1日(月) 10:00～12:00 8月5日(金) 10:00～12:00 8月8日(月) 10:00～12:00 8月12日(金) 10:00～12:00 8月29日(月) 10:00～12:00 | 学生・職員 |
| 新規採用者健康診断 | 8月3日(水) 9:30 集合 8月24日(水) 9:30 集合 | 職 員 |
| 学生健診追加検査 | 8月2日(火) 13:30 集合 8月23日(火) 13:30 集合 8月11日(木) 9:30 集合 | 学生(予約制) |
| 放射線取扱者健康診断 | 8月17日(水) 10:00～11:00 | 学生・職員 |

■駒場支所 (03-5454-6831)

| 診療科 | 担当医 | 診 療 日 | 診療時間 |
|--------|-----|--|-------|
| 内科 | 張 | 毎 週 (月) | 10:00 |
| | 石 川 | 毎 週 (水) | ～ |
| | 安 東 | 毎 週 (金) | 12:30 |
| 精神神経科 | 坂 本 | 8月1日(月) 午前、8月5日(金) 午後、8月8日(月) 午前、8月15日(月) 午前、 8月19日(金) 午前、8月22日(月) 午前、8月29日(月) 午前 | 予約制 |
| | 佐々木 | 8月3日(水) 午前、8月10日(水) 午前、8月24日(水) 午前、8月31日(水) 午前 | |
| | 飯 田 | 8月3日(水) 午前、8月10日(水) 午前、8月24日(水) 午前、8月31日(水) 午前 | |
| | 伊集院 | 8月8日(月) 午後、8月22日(月) 午後 | |
| | 滝 川 | 8月24日(水) 午後 | |
| 歯科口腔外科 | 松 崎 | 8月4日(木) 10:00～12:00 (矯正相談) | 予約制 |
| | 青 柳 | 8月5日(金) 15:00～17:00 | |
| | 大 木 | 8月8日(月) 10:00～12:00 13:15～15:15 | |
| | 青 柳 | 8月19日(金) 14:00～16:00 | |
| | 大 木 | 8月29日(月) 10:00～12:00 13:15～15:15 | |
| 整形外科 | 渡 会 | 8月19日(金) 10:00～12:00 | |
| 皮膚科 | | 休 診 | |

■柏支所 (04-7136-3040)

| | 内 科 | 精神神経科 | 対象者 |
|---|-------------------------|-------------------------|-------|
| 月 | 10:00～13:00 14:00～16:45 | 10:00～13:00 14:00～15:00 | 学生・職員 |
| 火 | 10:00～13:00 14:00～15:00 | 10:00～13:00 14:00～15:00 | |
| 水 | 10:00～12:00 15:00～16:45 | 10:00～12:00 | |
| 木 | 10:00～12:00 13:00～15:00 | 10:00～12:00 13:30～16:30 | |
| 金 | 10:00～12:00 13:00～16:45 | 13:30～15:30 | |

EVENT INFO

| 行事名 | 日時 | 場所 | 連絡先・HP等 |
|--|-----------------------|-------------------------------|--|
| 医科学研究所LOVELABO—感染症の研究ってなんだろう？— | 8月3日（水） 13:00～ | 医科学研究所講堂 | 医科学研究所所長室内「感染症」公開セミナー事務局 03-5449-5254 http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/Event/seminar050803.pdf |
| 「安全・安心と科学技術」プロジェクトオープンスクール特別講演会 | 8月3日（水） 18:00～ | 六本木ヒルズアカデミーヒルズ 49F スカイスタジオ | 先端科学技術研究センター「安全・安心と科学技術」プロジェクト事務局 03-5452-5482 http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/ja/events/2005/0803/index.html |
| 夏休み航空宇宙工学教室2005 | 8月3日（水）、 4日（木） | 工学部8号館 | 工学部航空宇宙工学科 summer-school@sky.t.u-tokyo.ac.jp http://www.aerospace.t.u-tokyo.ac.jp/event/summerschool/index.html |
| 地震研究所一般公開・公開講義 ※学内広報1315号参照 | 8月4日（木） | 地震研究所、安田講堂等 | 地震研究所アウトリーチ推進室 03-5841-5643 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/KOHO/PANKO2005/index.html |
| UT FORUM「学生論壇」—東京大学×北京大学 | 8月8日（月） 10:00～ | 法文2号館文学部教員談話室 | 学生フォーラム準備委員会（文学部中国語中国文学研究室内） E-mail:zhongwen@l.u-tokyo.ac.jp http://www.l.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/report.cgi?mode=2&id=36 |
| 中等教育段階における多面的教育測定～PISAを超えて～ | 8月20日（土） 12:30～ | 赤門総合研究棟 2F A200講義室 | 教育学研究科 教育測定・カリキュラム開発（ベネッセコーポレーション）講座 http://www.p.u-tokyo.ac.jp/sokutei/sympo.html |
| 医学系研究科生命・医療倫理人材養成ユニット特別講演会 | 8月20日（土） 17:00～ | 医学部教育研究棟14階鉄門記念講堂 | 生命・医療倫理人材養成ユニット特別講演会受付 http://square.umin.ac.jp/CBEL/summer_lecture/summer_lecture.html |
| 薬学部の新教育体制—薬学は変わる— | 8月22日（月） 13:30～ | 安田講堂 | 「薬学は変わる」事務局 03-5841-4851 E-mail:newpharm@mol.f.u-tokyo.ac.jp http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~tlong/newpharm/main.html |
| 東大病院腎不全教室 | 9月3日（土） 13:00～ | 東大病院入院棟A15階大会議室 | 医学部付属病院腎臓内分内分泌科事務室 磯部 03-3815-5411 http://www.h.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?newsid=83 |
| 第22回理学系研究科技術シンポジウム ※12ページ参照 | 9月9日（金） 13:00～ | 理学部1号館西棟206号室 | 理学系研究科技術部シンポジウム実行委員会 03-3814-0294 http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/s-tech/gisynpo.htm |
| 第10回分子細胞生物学研究所シンポジウム「情報生物学」 | 9月22日（木） 13:00～ | 弥生講堂一条ホール | 分子細胞生物学研究所（秋山 徹） 03-5841-7834 E-mail:akiyama@iam.u-tokyo.ac.jp http://www.iam.u-tokyo.ac.jp/symposium.html |
| 2005年度空間情報科学研究センター年次シンポジウム—CSISDAYS2005— ※12ページ参照 | 9月27日（火）、 28日（水） | 山上会館大会議室（2階） | 空間情報科学研究センター第8回年次シンポジウム受付係 E-mail:csisdays05-office@csis.u-tokyo.ac.jp http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/sympo2005/ |
| 第20回工学部・工学系研究科技術発表会 ※11ページ参照 | 9月29日（木） 10:00～ | 武田先端知ビル武田ホール | 工学系研究科・工学部総務課厚生係気付技術発表会実行委員会 （内線26019） |
| 行事名 | 開催期間 | 場所 | 連絡先・HP等 |
| 特別展示「『Systema naturae』～標本は語る～」展 | 6月4日（土） ～9月4日（日） | 総合研究博物館旧館展示ホール | 総合研究博物館 ハローダイヤル03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp |
| 特別展示「東京大学コレクションXX：関野貞アジア踏査—平等院・法隆寺から高句麗古墳壁画へ」展 ※学内広報1316号参照 | 6月4日（土） ～9月4日（日） | 総合研究博物館1階新館展示ホール | 総合研究博物館 ハローダイヤル03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp |
| ヒューマン・イメージ——先史時代の儀礼と人物像 | 6月4日（土） ～9月4日（日） | 総合研究博物館 | 総合研究博物館 ハローダイヤル03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp |
| 第31回生研公開講座イブニングセミナー「安全で安心な都市の実現のために」 | 6月10日（金） ～7月29日（金） | 駒場リサーチキャンパス総合研究実験棟3階大会議室 | 生産技術研究所広報企画係 03-5452-6017 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ |
| 錯覚展—心の働きにせまる不思議な世界— | 7月16日（土） ～9月18日（日） | 駒場博物館（1階美術博物館展示室） | 総合文化研究科・教養学部美術博物館 03-5454-6139 http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/~bihaku/2005.htm#illusion |
| 常設展「よみがえる幕末明治の人々」 ※学内広報1317号参照 | 7月～10月 | 総合図書館3階ロビー | 総合図書館 03-5841-2646（音声案内） http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/josetsu/ |

大学改革にはフィードバックシステムが不可欠

国立大学が法人化され1年が経過した。この機会に大学を改革しようとする多くの提言や決意表明がなされている。筆者は企業から本学に転じて10年近くなるが、この間大学はほとんど変わってこなかった。大学改革の掛け声にも関わらず、このままでは法人化後も大きな変化は起きないのではないかと危惧している。本学が目指すべき目標やそれを実現するための組織や規則類が整備されようとしているが、大学構成員の意識が変わらなければ変化は起きない。人の意識は総長や学部長の掛け声だけでは変わらないし、組織や規則をいじってもだめである。従来のやり方をしている、その人の仕事、環境、処遇、などが今まで通りに維持できなくなる、という強制力が働かないと人の意識は変わらないのである。

企業は利潤を上げることが組織の目的であり、激しい競争環境にさらされている。その組織や運営が効率的でないと競争に敗れ、利潤が上がらず、いずれ存立できなくなる。したがって絶えず組織、人事、運営のやり方を見直し、無駄を省き、必要な場合にはドラスティックなリストラを行なう。優れた組織・運営を行なう企業は発展し、そうでない企業は衰退し最後は破綻する、というフィードバックが機能している。



生き延びるためには今のやり方を変えるしかない、たとえ痛みを伴うとしても変えざるを得ないのである。

大学にはこのフィードバックの機能がほとんどない。いかに非効率で無駄なことを続けてもつぶれる恐れはない。何故こんな非効率なことを行なっているのか、と思いつながら十年一日同じことを繰り返している。大学改革にはフィードバックループの導入が不可欠である。すなわち、優れたものが繁栄し、そうでないものは生き残れないという生物進化の仕組みを取り込むことである。大学の構成員は知的生産資源、業務遂行資源を驚くほど浪費している。大学本来の目的からは必要のないことに多くの時間と労力を浪費している。そのようなことを続けると存立できなくなるフィードバックの仕組みが必要である。

さらに大学では全ての事柄が横並びで平等である。努力してもしなくても、ニーズがあってもなくても同じ教育・研究環境が与えられる。この平等主義が世の中の変化に追従することを阻んでいる。社会に必要な学問領域、育成すべき学生数、そのために必要なリソースは時間とともに変化する。その変化を反映するには平等主義は適当ではない。

大学は企業と異なるミッションを有する。したがって、企業とは異なるフィードバックシステムが必要である。それを我々は生み出し、取り入れることが求められている。

青山 友紀 (大学院情報理工学系研究科)

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1318 2005年7月27日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO